

談話室

第 11 回表面科学講演大会

上村 揚一郎

無機材質研究所 ☎305 つくば市並木 1-1

(1992 年 4 月 24 日受理)

The 11th Conference on Surface Science

Yoichiro UEMURA

National Institute for Research in
Inorganic Materials

Namiki 1-1, Tsukuba City, Ibaraki 305

(Received April 24, 1992)

日本表面科学会主催の第 11 回表面科学講演大会が平成 3 年 12 月 2 日～4 日の 3 日間、新しく早稲田大学に建設された国際会議場において開催されました。ここは以前早大の「阿部」野球場があり、日頃野球のノックの音が聞かれた所で、昔の早稲田マンには懐かしい思い出の場でもあります。新設された会議場はゆったりとしたスペースと近代的設備が整えられ素晴らしい雰囲気の間所となっています。このような会議場をお借りしての今回の講演大会の発表者、および参加者の数は前回の第 10 回大会とはほぼ同数でした。発表件数をセッション別みると表面分析・評価 24 件、表面化学 19 件、薄膜 14 件、表面物理 22 件、表面処理 9 件、酸化物超伝導体 9 件、Si の表面界面 11 件でした。

また 2 日目の午後には「表面反応の素過程」というテーマでシンポジウムがあり、活発な討論が行われました。このテーマは原子、分子の吸着過程や薄膜形成の初期過程における基板表面状態の変化など、表面を考えるうえでのまさに基本的な問題の一つであろうと思われます。

会誌などですでにご存じのことと思いますが、このほ

ど日本表面科学会関西支部が発足しました。それに伴い講演大会を東京以外の地区で開催してはどうかとの検討も行われています。そこで、今回の講演大会の発表者、参加者を地域別に分類、集計してみました。

表 1

地 域	発 表 者	参 加 者
東北・北海道	7%	4%
関 東	74	75
中 部	6	7
関 西	12	11
九州・四国	2	1

その結果は表 1 に見られるように、圧倒的に関東（東京を含む）地区からの出席者が多く、現時点での講演大会の地方開催は時期尚早の感があります。しかしながら本会の発展にともない、いくつかの支部が設立され、各地での研究会やセミナーなどが活発化してきた際には、当然再度検討されるべき問題であると思われます。この点に関して何かご意見がありましたら、ぜひ講演大会の係までお寄せください。さらに、今回から会誌「表面科学」の原著論文から選ばれた「論文賞」「奨励賞」の受賞記念講演を講演大会の中で行っていただくことになりました。今回は論文賞として「STM による有機超伝導体 κ -(BEDT-TTF)₂Cu(NCS)₂ 表面の研究」に関して吉村雅満氏（東大 工）が、奨励賞として「逆光電子分光法による NbC(100)、TiC(100) 表面の電子状態」に関して枝元一之氏（東工大 理）が、3 日目の A 会場、表面物理のセッションの午前、午後の冒頭でそれぞれ発表されました。今後ともこのような催しが活発に行われていくことが学会の活性化にとっても重要なことだと思います。会員各位の会誌への論文の投稿と共に、講演大会への積極的な参加を期待します。